

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月1日

ああ、あなたの信仰はりっぱです。その願いどおりになるように。-マタイ15:28

その悲嘆の中にあつて、このカナンの女は叫びました、「主よ、ダビデの子よ、あわれんでください！」と。彼女の祈りは熱心でなかったのでしょうか？いいえ、彼女は熱心でした。それとも彼女の祈りは、ただちに答えをいただけるような種類のものではなかったのでしょうか？私たちはそう考えるかもしれませんが。しかし、驚くべきことに、「イエスは彼女に一言もお答えにならなかった」のです。彼女に対して主は、何かを語る必要もなかったかのようでした。しかし彼女について弟子たちがうるさく言うので、主は「わたしの務めはイスラエルの家の滅びた羊のところに遣わされることだ」と回答されました。その主の回答は、しかし、彼女に対して緒を与え、主に近づく権利を与えたようでした。なぜなら、主は「ダビデの子」としては、ただイスラエルのみ遣わされたのです。それまで誰も主に対してそのような呼びかけはしませんでした。このことを理解して、彼女は訴えの根拠を変えたのでした。彼女はただ、主よ、と呼びかけたのです。

主の最初の応答は彼女に対する拒絶と見えました。しかし実際には、主は彼女がご自身を求めように促したのであり、それは間違った根拠でご自身と関わるのではなく、無代価で与えられる恵みの根拠によるべきことを示唆されたのでした。その時、彼女の信仰は即座の回答を得ました。彼女は鍵をつかんだのでした。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月2日

そこでイエスは言われた。「そうまで言うのですか。それなら家にお帰りなさい。悪霊はあなたの娘から出て行きました。」-マルコ7:29

次のような質問がよくなされます:クリスチャンにとって祈りは極めて重要ですが、祈りの奉仕をする際に、声を出して祈るべきか、それとも神のみ前に自分の重荷を静かに置くだけで良いのでしょうか? 回答は、もし神が祈りの重荷を与えられたならば、それを語り出すことを神は願っておられる、と私は信じています。神はそれを口に出して語り出すことを求めておられるのですが、しかしながら私たちが語り出すべき言葉がほとんどなかったり、あるいは言葉が与えられない場合もあります。重荷は語り出すことによって解放されるものです。主ご自身ですら、ゲッセマネにおいて「苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた」のです。霊的事象においては、信仰と語り出すことには密接な関係がある、と私には思えるのです。神は私たちが信じている内容を採り上げられるだけでなく、私たちが語り出すことに配慮されるのです。スロ・フェニキアの女はたった一言語っただけでした。が、その結果は、彼女が家に帰ると、娘から悪霊が出て行ってしまったことを見出したのでした。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月3日

そこで主に対する祭壇を築いた。-創世記12:7

アブラムが祭壇を築いた所は神が彼に対して現れた場所でした。人に対して神が現れるまで、彼は自分からその全てを神に捧げてはおりません。しかし神が彼に出会う日が来ます。その日にこそ神は彼のすべてを獲得するのです。アブラムはそれまで聖別の教義についてほとんど知らなかったかもしれません。あるいは人から自分を聖別することを勧められることもなかったでしょう。それはよくあることです。なぜなら聖別を語る人々がすべて真に自分を聖別しているとは限らないからです。多くの人はその教義を知ってはいるでしょうが、真にその実際に入っている人は少ないのです。しかしアブラムは神を見ました。それ故に祭壇を築いたのです。ほんのわずかでも神を見るのであれば、あなたの人生は完全に神のものとされるでしょう。二千年にわたる教会歴史はこのことを証明しているのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月4日

ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたことを確かなものとしなさい。-2ペテロ1:10

霊的な富は、ある特定の場面において、特別な賜物として与えられるだけではなく、人間生活の長年にわたる絶えざる神聖な活動からもたらされるのです。兄弟姉妹たちが特別の経験に頼ろうとするのを観るとき、私は実に残念に思うのです。彼らは助けをもたらすその経験と経験の狭間にあっては、その周囲の世俗の人々となら変わりないような生活に墮しているのです。それはなんとという貧しさの証明でしょうか！彼らは霊的な富を何も蓄えていないのです。集会から一時的なクリスチャン的生き方を得たり、あるいは他の恵みによる助けを受けるまでは、彼らは敗北の生活を送っているのです。御霊による生き方はそのようなものではありません。その富は足踏みするような状態において得られるものではなく、長い人生の道程にある神の絶えざる恵みの働きからもたらされるものなのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月5日

このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。-  
マタイ16:17

教会の基礎はキリスト御自身のみではなく、キリストを知る知識でもあります。今日、教会-そう、いわゆる教会ですが-にある私たちの多くの者たちの悲劇は、その基礎が欠如していることです。私たちは主御自身を知らないのです。私たちにとってキリストが単なる教理あるいは神学的なキリストであって、啓示されたキリストではないのです。しかし教理は地獄に勝ち得ません。しかるにイエスは、教会は地獄にも勝ち得る、と宣言されたのです。私たちは自分自身が何のために存在するかを忘れているのでしょうか？西洋人の家庭を訪れるとき、時にきれいな陶器のお皿を目にします。しかしそれは食卓の上で使用するためではなく、何か貴重な記念物として、壁にうやうやしく飾られているのです。多くの教会は、私にはそう見えるのですが、このように単に美しい形を愛でている状態ではないかと思えます。しかし、それは違います。教会は装飾のためではなく、用いられるために存在しているのです。状況が好ましいときにはいのちの外観だけで十分に見えるでしょうが、地獄の門が私たちに敵対する場合には、何にも増して私たち一人ひとりに必要なのは、神が賜った神の御子の十分なる啓示です。その知識こそが試みの時にあって効力を発揮するのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月6日

わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。-ヨハネ15:4

この親しみのある御言葉は私たちをキリストのうちに置かれたのは神御自身であることを思い起こさせます。私たちはそこにいるのです、そこでそこにとどまるように命じられています！それは神御自身の業ですが、それによって私たちはキリストの内に住まうのです。「わたしのうちに住んでいなさい、そうすればわたしもあなたがたのうちに住みます」。これは二重の文章です。すなわち約束によって保障された命令です。それは、神の御業には客観的側面と主観的側面があるということです。主観的側面は客観的側面によります。「わたしもあなたがたの内にいます」と言うことは、私たちがキリストの内に住まうことからたらされます。私たちはその事実の主観的側面について、ぶどうの枝としてもがきつつ、どんな色のだのようなサイズの実を産出し得るのかとか、あまり思い悩む必要はありません。私たちはその客観的事実にとどまればよいのです。「わたしのうちにとどまりなさい」と。そしてその結果は神にお任せすればよいのです。すると神はそれを顧みてくださいます。実の性質はつねにぶどうの木そのものにより決定されるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月7日

ところが、夜中になって、『そら、花婿だ。迎えに出よ。』と叫ぶ声があった。-マタイ25:6

乙女たちの状態を露わにしたのは、花婿が遅れることによりました。私たちはどのようにして主の再臨に備えるのでしょうか？私たちの間には、5年前に主が来られたとしたら十分備えを成し得た者もいるでしょうが、しかし、もし今日来られたら彼らは備えが間に合わないのです。今、主が来られることに備えることはもちろん素晴らしいことですが、もし主が遅れるとしても、備え続けることもそれに劣らず重要なことです。私たちは待ちつつ、かつ備えをすることができるのでしょうか？ある人たちは三日ならば待つことができますが、三年は無理です。ある人たちは三年間かろうじて持ちこたえるでしょうが、しかし30年見張りつつ待つ必要があるかもしれません。次のことを考えてください。もし花婿が真夜中以前に来られたとしたら、乙女全員が賢い者となったことでしょうか！彼女たちの愚かさを暴き出したのは、花婿の遅延でした。どうか神が私たちを無為な年月から守ってくださいますように！時間のテストをパスする方法はひとつです：主の御霊に満たされることです。その大いなる暗闇が到来するとき、絶えず神の霊に満たされ続けるように、またランプに油が絶えることがないように。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月8日

いや、わたしは主の軍の将として、今、来たのだ。-ヨシュア5:14

この7つの強敵の地を、イスラエルを導いて攻める任務に直面して、ヨシュアが大いなる重圧を感じたにしても、驚くに値しないでしょう。しかしここ、エリコに来るまでに、彼はこの幻を見たのです。彼の目の前に抜き身の剣を持った人物が立ちはだかりました。「あなたは、私たちの味方ですか。それとも私たちの敵なのですか」と、ヨシュアはたずねました。すると回答がありました。それはまったくの妥協を許さずに、「いや」と答えました。彼はこちらの側でもなく、あちらの側でもなかったのです。その方は「軍の将」として来ていたのです。

神を賛美します。これこそが神のご目的でした。すなわちご自身の軍隊の将として、ご自身の地を獲得することです。私たちは全ての事柄が自分を中心に回り、自分の関心に益することを願います。しかし神はそれを望まれません。神は、いろいろな問題の中に立たれ、時に応じてあれこれの僅かばかりの助けを与えるものではありません。私たちにとっての問題の核心は、そのような助けを受けるか否かではなく、神の主導権を認めるか否か、なのです。もし神が戦いにおいて第二位以下の立場を取られると考えるのであれば、あなたは神を知っていません。神の立場は主導することです。このときのみ、あなたは、神があなたのために抜き身の剣を携えていることの意味を理解することができるでしょう。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月9日

見よ。わたしはあなたとともにあり、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ戻そう。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。-創世記28:15

ここベテルにおいては、そのときのヤコブの霊的状态にもかかわらず、神には彼を叱責する言葉は一言もありませんでした。私たちは確かに神を裏切ることがあるのです！しかも神は聖であり、神はヤコブの欺瞞と何らの関わりもありませんでした。しかし神は彼を叱責されなかったのです。それは何故だったのでしょうか？ヤコブは自分を変えることはできませんでした。したがって、神は彼にそのことを求められませんでした。しかしヤコブにとって不可能なことも、神にとっては可能です。そして神の言葉にはその絶対的確信が満ちているのです。「わたしは・・・成し遂げるまで、決してあなたを捨てない」と。神はその僕がご自身の御手から逃れられないこと、そしていつの日にかベテルに戻るであろうヤコブが、まったく変えられた人物となっていることを、神はご存知なのです。「見よ、わたしはあなたとともにあり・・・」。これは私たちの慰めです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月10日

信仰によって、ノアは、まだ見ていない事らについて神から警告を受けたとき、恐れかしこんで、その家族の救いのために箱舟を造り、その箱舟によって、世の罪を定め、信仰による義を相続する者となりました。-ヘブル11:7

私たちは「バプテスマによる再生」と言うことはできませんが、「バプテスマによる救い」とは言ってもよいでしょう。すなわちこの世(cosmos)あるいは、世のシステムからの救いです。私たちはサタンのこの世のシステムの中に組み込まれていました。救われるとは、サタンの領域から神の領域へと脱出させられることです。主イエスの十字架において、この世は私たちに対して釘付けられ、また私たちも世に対して十字架につけられたのです。この聖句はペテロが「水を通して」(1ペテロ3:20)救われた八人の人々を描いた時に展開させた救いの絵です。箱舟に入り込む時、ノアと彼の同胞たちは、信仰によって、古い墮落したこの世から新しい世界へと、その一歩を踏み出したのです。彼らは個人的に溺れなかったにとどまらず、この腐敗したシステムから脱出し得たのです。これが救いです。あなたがバプテスマされたとき、あなたが水の中に沈み込まれたと同時に、この絵にあるとおり、あなたの負っていたこの世も共に沈まされたのです。あなたがキリストにあって水から上がったとき、あなたの負っていたこの世は沈んでだままなのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月11日

地の果てのすべての者よ。わたしを仰ぎ見て救われよ。わたしが神である。ほかにはいない。-イザヤ45:22

この節はなんと適切にあの死につつある盗人の経験を描いていることでしょうか！すべての歴史は、キリストの十字架を志向しているのです。今や人々の目前において、その事実そのものが証明されつつあり、この罪人こそが鍵となる証人なのです。この典型的罪人は、典型的な裁きを受けているのです。そこで私たちは、ここでこの罪人は典型的な回心をした、と結論する必要があります。が、なお、私に尋ねさせてください：彼はイエスを救い主と認めたでしょうか？彼の言葉を考えてください、「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるときは、私を思い出してください」(ルカ23:42)。それに対する主のお応えはどうだったでしょう？主はこの男に対して、その受けている罰は正当であると指摘した上で、贖いの意味について説明などをされませんでした。しかし、イエスはその罪の犠牲の供え物として、彼のために死につつあったのです。私たちにとってみれば、その時はまさに贖いの真理を解き明かすべき最善の機会と思われたでしょう。しかしイエスは違いました。主はただこう言われました、「あなたは、今日、わたしと共にパラダイスにいます」と。この盗賊はイエスがどなたであるかをぼんやりと見ただけでした。すなわち、イエスはこの不義の苦しみを通してその御国を支配されまた所有されるであろうことを見たのです。彼は全地の王たる方を横に見て、ただ彼に叫んだだけでした。そしてそれだけで十分だったのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月12日

私はあなたのうわさを耳で聞いていました。しかし、今、この目であなたを見ました。-  
ヨブ42:5

正しい教義を知ることにより私たちは増長し、自分の知識や意見を誇るようになります。あるいは巧みな議論や種々の手法を弄することにより、自分の実態を離れて、その知識だけをひけらかすことにより、真理を排除してしまうことがあります。しかし幻は革命的なものです。それに比するならば、その他のものはきわめて小さいものに見えます。一旦主を見るのであれば、私たちは決して主を忘れることはできなくなります。サタンの攻撃が活発になり、友人たちの助言も役に立たなくなるとき、その試みの中で私たちを堅く立たせてくれるのは、この内なる神の知識です。

回心後の1年か2年の間、私は近代主義者や無神論者が聖書の誤りや信じるに値しないことを証明することを恐れていました。もし彼らが成功したら、私は自分が完全に終わるであろうと感じていたのです。私の信仰は失われたであろうし、よって信じることを切望したことでしょう。しかし今やすべて平安の中にあります。彼らが全員で訪れ、聖書に反する議論を西洋の鎧に撃ち込まれた数々の銃弾のごとくに私に提示したとしても、私の回答はひとつであり、変わることがないのです。「あなたの論には大変合理性がありますが、しかし、私は私の神を知っているのです。それで十分なのです」と。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月13日

そのようなわけで、私たちは、心に血の注ぎを受けて邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われたのですから、全き信仰をもって、真心から神に近づこうではありませんか。-ヘブル10:22

私たちが至聖所に入るとき、イエス・キリストの血潮以外のものを根拠に入ろうとすることがありませんか？しかし自問自答をする必要があるのです。果たして自分はその血によってのみ神の臨在に入ろうとするのだろうか、それとも他の何かを頼るのであるか、と。「血によって」というとき、それは何を意味するのでしょうか？単純に言えば、自分の罪を意識し、清めを必要とすることを告白し、主イエス・キリストがなされた事実に基づいて、神の身元に近づくことです。ただキリストの故にのみ、私は神に近づくことができるのであり、私の達成とかではありません。例えば、私が特別な人物であるからとか、あるいは特別な患者であるからとか、あるいは今日、主のために何かを成し遂げたからとかではないのです。

私は誤っているかもしれませんが、それでも私たちの中のある人々は次のように考えているのではないかと危惧します。「今日は私は少しは注意深くおれた；今日は少しは良いことがなせた；今日は神に近づき、より祈ることができた！」と。違います、断じて、違います、違うのです！清い良心は私たちの達成によるのでは決してありません。それは主イエスが贖いの血を流されたことによる御業に基づくのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月14日

それはイスラエル人ヨアシュの子ギデオンの剣にほかならない。神が彼の手にミデヤンと、陣営全部を渡されたのだ。-士師記7:14

神を喜ばせたのは、神のしもべたちをしてこのように鮮やかな勝利を再確認するために用いられた手段でした。ここにはイナゴの大群のような大規模な侵略軍がいたのです。しかもギデオンは徐々に軍隊を解散するように命じられていました。このメディアン人の軍隊に立ち向かうために、残された三百人はあまりにも不条理であるように見えました。この時までにはギデオンは勝利の確信すら得ていなかったのです。まさにこのような不確実さの中において、ギデオンは敵の陣営に入ったのです。

神を賛美します。私たちにとってあらゆる方策が尽きてしまう時こそ、容易に神が道を開かれるための絶好の機会なのです。そのわずかの精鋭たちは神の民を解放するための神の手駒だったのです。その神のしもべ(ギデオン)は、自分が直面したジレンマにおいて、彼の信仰を息吹くべく最適に按配された方法によって、その確実な知らせを聞くことになるのです。それはひとりの敵の口から預言的に語られたのでした。彼はここで学びます、すでに恐れが敵を覆い尽くしていたのです。ここで彼が神を礼拝したことは明らかでしょう！

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月15日

また、祈るときには、偽善者たちのようであってははいけません。-マタイ6:5

あまりにも多くの人々がクリスチャンとして行動することに囚われています。私たちは「霊的」生活を送り、「霊的」な言葉を語り、「霊的」な態度を取りますが、しかしそれはしばしば自分自身でなしているのです。多分それらをうまく行うことができているかもしれませんが、そこにはある種の違和感が含まれているのです。私たちは自分自身に対してあれこれいろいろな事柄を反省するように求めるのですが、それはなんという束縛でしょうか！自分の本心と異なる言葉を語らなくてはならない経験を持っている人がいるのでしょうか？その人は私が言わんとすることが理解できるはずですが。意志を用いて行おうとするならば、それは自然な流れにならないのです。そのように語ることを自分に要求することになるからです。しかし自分自身の言葉をもって語り出すならば、すべてが容易になるでしょう。何の努力も必要とせず、意識的なフリをするまでもなく、自由に語り出すことができるのです。その意識しない言葉はあなたがどのような者であるかを明らかにします。

クリスチャン生活にとって作爲的な振る舞いをするほど傷となることはありません。もし私たちの言葉、祈り、物腰が、私たちの素晴らしい主キリストのいのちから流れ出る自然な表現であるならば、それらはなんという祝福となることでしょうか。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月16日

わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。-2コリント12:9

パウロがこの章において提示されている「主の幻と啓示」の内容について、あまり多くを語っていないことは重要です。彼は「14年前に」経験したことを語ることはあまり益にはならないと言いつつも、その願いに反して、状況から押し出されるように、その経験を語ったのです。14年間です！ところが私たちの間では、神から何かを受けるならば、すぐさま海中に知れ渡ってしまうのです！たった2年間秘匿するだけでも功績とされてしまうでしょう。しかしパウロは、そのような長い年月の後でさえ、その内容について語ることはなく、キリストをさらに知るためであると言ったのです。むしろ彼はそのために受けた「肉体のとげ」について、また神の恵み深い祈りへの答えについて語ったのです。人々に対して力を与えるのは、その啓示ではなく、その神の答えなのです。

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月17日

あなたがたは、私に悪を計りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとなさいました。-創世記50:20

神はヨセフに対して格別になすべき業をもっておられました。それはイスラエルを飢饉と死から救い出すことでした。その神の僕に対する神の方法はきわめて異例と見えるものでしたが、最終的にはヨセフは兄たちにこう告げることができました。「神はあなたがたの命を救うために私をあらかじめ遣わされたのです」と。彼は分かっていたのです。ここで質問です、私たちはどうでしょうか？私たちが意識的に神に仕え始めた時だけでなく、神の御手は最初から私たちの上に置かれていたのです。神は予知によって私たちが生まれる前から私たちの環境を整えておられたのです。しばしば自分の生まれた家族が悪いものであると感じたとしても、私たちが誰の子供となるかすらも決定されていたのです！ある人は両親を受け入れることはできるにしても、自分の兄弟姉妹、あるいは他の親戚を変えたいと感じているかもしれません！ヨセフも、知的に考えるならば、このように感じることは当然でした。彼の兄たちは邪悪なことを彼にしたのですから。しかしすべての道は神によって私たちのために備えられたものです。神はそう意図されたのです。しかもそれは良きことのためにです。私たちは、もし神の御手が神の選びによって働いていることを見損なうならば、神に対して賛美を捧げる大いなる機会を失ってしまうことでしょう。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月18日

天にあるわしの道-箴言30:19

鳥のことを考えてみてください。彼らに質問することができたとしたら、重力の法則を恐れていないかどうか尋ねてみてください。彼らはどう答えるでしょうか？彼らはこう言うことでしょう、「私たちはニュートンの名前などただの一度も聞いたことはありません。彼らの説いた法則も知りません。私たちにとって飛ぶことはそれが私たちのいのちの法則だからです。」と。彼らのいのちには飛行する能力が備わっているだけでなく、この生きる生命体は重力の法則にすら勝ち得る法則をもつ命を有しているのです。しかし重力は歴然として存在します。風の強い雪が深く降り積もる早朝に起きたとしましょう。そして死んだツバメを発見します。その時、ただちに重力の法則がいぜんとして存在することを知るのです。しかし鳥が活着している間は重力に打ち勝つのです。彼らの内なるいのちこそが彼らの意識をコントロールしているのです。そうです、同様に、キリスト・イエスのうちにあるいのちの御霊の法則は、私たちを罪と死の法則から解放する力を有しているのです！

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月19日

ふたりは連れ立ってユダヤ人の会堂にはいり、話をする、ユダヤ人もギリシヤ人も大ぜいの人が信仰にはいった。-使徒14:1

私たちが立ち上がって語り出すとき、聴衆は私たちが単に教義を叫んでいるのか、いのちを解き放っているのかを感知します。もし前者であるならば、私たちには何らのリスクもないでしょう。私たちは誤解されないように、完全に安全な範囲にとどまりつつ、語ることを教義の枠組みに沿うように、慎重に配剤すればよいのです。論理的流れに従って知的に論じ、論理的な矛盾が生じないように語る内容を整えればよいのです。しかし、もし私たちがいのちを提示するのであれば、そのアプローチは全く異なるものとなるでしょう。そのときには瑣末な正しさなどに拘泥することはあまりないのです。私たち自身が、単なる教義などは人を変えることがないと知っているからです。聴衆に対して生けるキリストその方を提示することができるならば、そして彼らがその臨在にもたされるならば、私たちの目的は達成されたことを知るのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月20日

これらの出来事の後、主のことは幻のうちにアブラムに臨み、こう仰せられた。「アブラムよ。恐れるな。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きい。」-創世記15:1

神が「恐れるな」と言われるのは、ご自身のしもべの心の中に、恐れか疑いがあることを感知された時です。この神の言葉の前の出来事に注意してください。アブラムはメルキゼデクからパンとワインを受け取ったのち、ソドムの王が提示する報酬を拒絶することは容易であると思ったようです。しかし、ここで再び疑いと疑問が彼の思いに浮かび上がったのでしょうか。一切の妥協を許さないで、彼からの援助を拒絶することは、果たして賢明であろうか、と。自分の実直さによって彼を敵に回すのではないか、と。

神に感謝します、あらゆる疑惑に対して神聖な保証が与えられます。「主の言葉がアブラムに臨み・・・」。彼の恐れについてはどうでしょう？神御自身が彼の城壁となられたのです。彼の将来についてはどうでしょう？神は他でもないご自身を、アブラムの最高の報酬として提供されたのです。ソドムの哀れな底なしの代用品によって誘惑されずにするだことを、アブラムはどれほど神に感謝したことでしょうか！

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月21日

あなたがたのうち、だれが主を恐れ、そのしもべの声に聞き従うのか。暗やみの中を歩き、光を持たない者は、主の御名に信頼し、自分の神に抛り頼め。－イザヤ50:10

暗闇に投げ込まれるとき私たちは、それに頼りつつ歩むことができる光を求めて、自分の周りに灯すべく、自前の青白い松明をともしようとする危険性があります(11節)。「私は物事を十分考慮した;この二つとあの二つを一緒にして;このことには確信がある・・・;私の判断は正しい・・・」といった考えや感覚はまことの光の源とはなり得ないのです。これらは単なる燃えさしにすぎません。これらのものを神の光の下に置くならば、何らの明らかな光も深みもないのです。そして結果として、私たちは「苦しみのうちに打ち倒れる」です。もし混乱を望むのであれば、そのような方便を取るのもよいでしょう。しかし闇は人の光によっては決して駆逐できないのです。光はただ神からもたらされるのです。神を待ち望みなさい!すべてが暗闇であったとしても、そこに光は存在します。そして私たちは「あなたの光のうちに光を見る」のです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月22日

群衆のだれもが何とかしてイエスにさわろうとしていた。-ルカ6:19

私たちは誰も神の神秘的な道を知り尽くすことはできませんし、神に対して、こうなさるべきだ、と処方箋を提示することもできません。ひとりの中国人の男の子がおりましたが、彼が12歳の時に、母親に丘の上にある寺院に礼拝のために連れて行かれました。寺院の前に母親と共に立っていた時、その子は偶像を見つけました。そして思いました、「お前は礼拝を受ける対象としては醜く汚れているよ。お前がぼくを救うことができるとは思わないね。お前を礼拝することに何の意味があるのだろうか？」と。しかし母親の顔を立てて、彼は礼拝儀式に参加しました。そして終わった後、母親は椅子に座り込み、山を降りることになったのです。その時、彼はこっそりと抜け出して寺院の裏手に廻り、そこで空き地を発見したのです。そこで彼は天を仰いで言いました、「ああ、神さま、あなたがどなかであれ、あなたはこんな汚れた寺院に住まわれるとは信じられません。あなたは偉大な方です。ぼくはあなたをどうやって見つけるかわかりませんが、ぼくのことをあなたの御手にお任せします。罪の力はとても強く、世はぼくを惹きつけます。ぼくはあなたにぼく自身を明け渡します、あなたがどなたであろうとも」と。30年後に私は彼と出会い、彼に福音を語りました。彼は告白しました、「今日、私は初めて主イエスに出会いました。しかし神に触れたのは二度目です。はるか昔、あの山の上で何かが起きていたのです」。

「彼に触った者たちは皆癒された」。神は必ずしもどのようになさるかを説明されることはありません。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月23日

その棒を、箱をかつぐために箱の両側にある環に通した。-出エジプト37:5

証の箱は固定化された台座を持ちませんでした。幕屋の全体の記述には、その下に床があるとも書かれていません。なぜならそこにはイスラエル人が踏んだと同じ砂漠の砂地が広がっていたからです。そして私たちのクリスチャンとしての証も、私たちの日々の生活の歩みにおけるキリストご自身を示すものです。さらに、棒は証の箱がそれによって前進させられることを保証するものでした。同じように、私たちの証も決して固定されるものではなく、常に動き、新鮮で、活動的なものであるべきです。私が意味していることは、何かの必要が生じた時に、何か魔術的なものが動き出すという意味ではなく、常に私たちが備えをしていること、そして神がなし得ることを常に新鮮に確信することです。キリスト、それは第一義的に彼について私たちが語ることのうちにおられるのではなく、私たちの巡礼の旅において、私たちが担う証そのものなのです。そしてその旅の新しいステップは、私たちがキリストの新しい発見へともたらすのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月24日

わたしたちも数は多いが、キリストにあって一つのからだであり、また各自は互に肢体だからである-ローマ12:5

イエスとその民が御体と肢体の関係にあることは、タルソのサウルの改心と召命にとつてきわめて重要でした。彼に対する主の最初のお言葉、「わたしはあなたが迫害しているイエスである」は、彼がまさに主の尊ばれるもの、また主ご自身にすら触れていることを強調するものでした。そのとき主の民は、サウルに対して教会の奥義として与えられた偉大なる啓示を見せていたのです。しかし主はそこでとどまられませんでした。主はサウルに天的な奥義にとどまることを許されませんでした。それに続いて直ちに、その啓示にふさわしい具体的な命令が与えられたのです。「さあ立って、町には行って行きなさい。そうすれば、そこであなたのなすべき事が告げられるであろう」。そこであなたに告げられるであろう。彼がもっとも嫌悪していた人々からなすべき事が告げられるのです！まさに彼が破壊しようとした主の弟子たちから離れてはサウルは救いようのない状態だったのです。彼には事態がまったく飲み込めなかったことでしょう。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月25日

けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。-ペリピ3:20

どんなに私たちが太平洋から大西洋に飛び回って働いたとしても、地から天に向かっての働きはできません。天とは、いつの日にか教会が達する場所ではありません。教会は今そこに現存します。天は教会の源でもあり、住まいでもあるのです。しかしその目標ではありません。ですから、天に至ろうとする努力は決して実を結びません。この言い方は極端に聞こえるかもしれませんが、事実です。私たちの天的な召しがどのようなものであるかを新鮮に見ることができますように！その召しは私たちが天へと手招きすることではなく、すでに私たちがそこに属し、そこにおることを告げ知らせるのです！そこで私たちクリスチャンは、天に向かう働きをするではありません。すでに私たちは天の住人であり、私たちのすべての属性は固くそこに帰属しているのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月26日

天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子たちに現わしてくださいました。-マタイ11:25

救われて後まもなく、私は村々を回って福音を宣べ伝えました。私は教育を十分に受けており、聖句の知識も十分に蓄えましたので、村人に十分に教えることができると思っていました。その村には無学な婦人たちが大勢おりました。しかし数回訪問した後、私は気がつきました。彼らは無学ではあるのですが、主について親しい知識を十分に持っているのです。私は彼らがよく読めない本についての知識を持っていましたが、彼らはその本が証しているお方を知っているのです。私は自分の中に多くのものを保有していましたが、彼らは御霊の中に多くのものを得ていたのです。その時点では、十字架の取り扱いを受けることなくしては、私が持っているものは御霊の働きに対して単なる妨げにしかなりえないことが開かれていませんでした。今日、いかに多くのクリスチャン教師たちは、その頃の私のように、単なる肉的な備えの中で教えていることでしょうか！しかし神に感謝します！神はご自身を幼子たちに啓示されるのです！

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月27日

むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。-1ペテロ3:15

きわめて多くのクリスチャンが御霊の力を経験できないでいる理由は、その方を崇める心が欠如しているからです。そしてその心の欠如の理由は、御霊が私たちの内に住まわれているという厳粛な事実に対して目が開かれていないからです。この事実はひっくり返すことができません。しかしそれをまだ見ていないのです。ある神の子供たちは勝利の生活を送っているのに、別の人々は絶えず敗北の人生にとどまるのはなぜでしょう？その理由は、御霊が臨在される・されない、と言うことではありません(なぜなら御霊はすべての神の子供の内に住まわれるからです)。しかし次の事によります。ある者たちはその内住を知っており、ある者たちは知らないのです。その理解に従って、前者は自分の所有権は神にあることを知り、後者は依然として自己を主として勝手に生きているからです。私たちの心が神の御住まいであることを発見するならば、すべてのクリスチャンの人生は革命的変革を味わうことができるでしょう。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月28日

私たちがまだ罪人であった時に、キリストは私たちのために死んでくださった。-ローマ5:8

私たちの贖いの代価の見るとき、自分自身を神へとお捧げする以外に何もし得ないのではないのでしょうか？「神の憐れみによって私はあなたがたに嘆願します」とパウロはローマ12章で訴えています。その前の11の章においては、パウロは彼らに解説を、常に神聖な憐れみを通して、与えています。愛によってキリストは、私たちが新しいのちによって生きるようにと、ご自身は死んでくださったのです。その同じ愛が私たちを再びキリストへと引き戻すのです。そのような自己を手放した愛に直面することにより、私たちは自分をキリストへとお捧げする以外に何もし得なくなるのです。完全に自分を捧げることなく無意味に長年クリスチャンであり続けることは驚くべきことです。なぜなら私たちは値のつけられない代価によって買い取られたのではないのでしょうか？したがって私たちが意志をもって神にお捧げすることは、「神のものである」(1コリント6:19f) 私たちの体と霊によって神を栄光化することなのです。これは神の権利であり、私たちが神へと気ままになすことはではありません。私は私のものではありません。神の所有を盗むことなどできましようか？「主よ、私の所有すべて、私自身のすべて、そして願うもの、それらすべてはあなたのものです！」。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

## ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月29日

**私のあとから来られる方は、私よりもさらに力のある方です。…その方は、あなたがたに聖霊と火とのバプテスマをお授けになります。-マタイ3:11**

ただ神のみがご自身の子供たちにすばらしい賜物を授けることができになります。不幸なことに、彼らは自分たちが豊かにされるにつれ、その賜物を軽く扱う傾向があります。旧約の聖徒たちは、彼らは私たちよりも神の顧みが薄かったのですが、私たち以上に注がれた御霊の賜物を重く味わったことでしょう。なぜなら彼らの時代には、御霊の賜物は選ばれた僅かの者たち、すなわち祭司たち、士師たち、王たちや預言者たちにもみ与えられたのですが、今やそれはすべての神の子供たちの受ける分とされました。考えてみて下さい！キリストを信じる私たちのような無に等しい者たちに対して、神の友であったモーセ、神に愛されたダビデ、また力ある預言者エリヤにとどまられた同じ御霊が臨在されるのです。イエスは言われます、「女から生まれた者の中で、バプテスマのヨハネよりすぐれた人は出ませんでした。しかも、天の御国の一番小さい者でも、彼より偉大です」と。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(9月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

9月30日

ばらまいても、なお富む人があり・・・箴言11:24

物質的な事柄を統治する神の原則はマナの原則です。すなわち、「多く集めた者も余ることはなく、少なく集めた者も足りないことはなかった」です(出エジプト16:18;2コリント8:14f)。これが意味するところは、少なく集めた者も不足することがなく、多く集めた者も剰余を残すことをあえてしなかったのです。私たちのある人たちはこのことの価値を経験によって知っているでしょう。私たちが少なく集めた者の重荷を負うのであれば、神は私たちがさらに豊かに集めることができるように配剤して下さるのです。しかし、逆に私たちが自分の必要だけを考慮するのであれば、私たちがなし得ることはせいぜい少量を集めて、かろうじて欠乏に見舞われない程度になるでしょう。

主にある私たちの兄弟を援助することは大きな特権です。仮に私たちの収入の多くを捧げることになろうともです。学びの欠如によりまれにしか受けることがない人々に対して、喜んで与える人々は絶えずさらに多くのものを受け取ることを享受するのです。するとさらに与えることとなります。他人のために消費すればするほど、あなたの収入は増えることでしょう。お金を蓄えようとすればするほど、「しらみ」や「強盗」によって脅かされることになるでしょう。

ウォッチマン・ニーによる霊想